

## 通時的な「自立語化」と「構文化」についての統語的一考察

東北大学 小川芳樹

ogawa@ling.human.is.tohoku.ac.jp

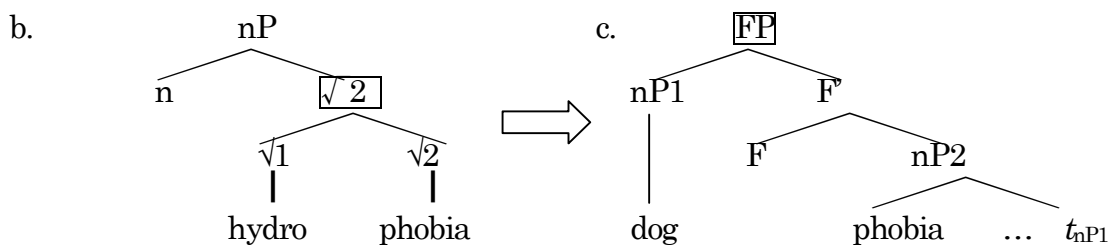
### 1. 導入

- (1) a. **Lexicalization** is the change whereby in certain linguistic contexts speakers use a syntactic construction or word formation as a new contentful form with formal and semantic properties that are not completely derivable or predictable from the constituents of the construction or the word formation pattern. Over time there may be further loss of internal constituency and the item may become more and more lexical. (Brinton and Traugott (2005: 96))
- b. Klausenberger regards the development of clitics out of more grammatical material as “partial syntacticization” (2002: 39). Full **syntacticization** that is also considered an instance of lexicalization is associated with changes in which an inflectional or a derivative morpheme attains independent status as a word with concrete meaning, e.g. *ology* or *bus* (...). The change from an affix to an autonomous word is seen by Anttila (1989 [1972]: 151) as a “particular clear case of **lexicalization**. (ibid.: 60)
- (2) It should have become clear that constructional approaches to linguistic change, and construction grammar in particular, not only raise some interesting new questions here, but that they are also well suited for dealing with these problems and for treating multiple elements as single units, either in the form of constructions or what could be termed **constructionalization**, i.e. the formation of new units (constructions) out of hitherto independent material. (Bergs and Diewald (2008: 4))
- (3) This book outlines an approach to language change from the perspective of Construction Grammar. The idea of ‘**constructional change**’ will be developed as a new way of looking at diachronic processes in language. ... some of them are already grouped together under the heading of grammaticalization (Hooper and Traugott 2003). In what cases should we speak of constructional change rather than use established terminology? This book is an attempt to formulate a comprehensive answer to this question and ... (Hilpert (2013: 1))
- (4) 統語的「構文」とは、2つ以上の形態素 (Y<sub>1</sub>, ..., Y<sub>n</sub>, X) (n ≥ 1, X=主要部)の直接的または間接的な併合によりできる構成素 (いわゆる「語」または「句」)のうち、Y<sub>1</sub>, ..., Y<sub>n</sub>の中の少なくとも1つが「変項」として機能するものをさす。  
(例 : X-phobia, V-ment, N-V-er, [<sub>VP</sub> have a V], [<sub>VP</sub> NP<sub>i</sub> V+MAKE one’s way PP], etc.)
- (5) 統語的「構文化」とは、ある時代に主要部 X と特定の拘束形態素 Y が選択的に結合して生じる最小サイズの統語的単位であったものが、のちの時代に、変項 Y (つまり、X と結合し得る非選択的な Y) と主要部 X が結合してできる最小サイズの統語的「構文」に変化し、さらにのちの時代に、主要部 X と変項 Y を含む構成素が、より多くの機能範疇 (と Y 以外の変項も) を含むように、そのサイズを一方向的に拡大していく過程をさす。

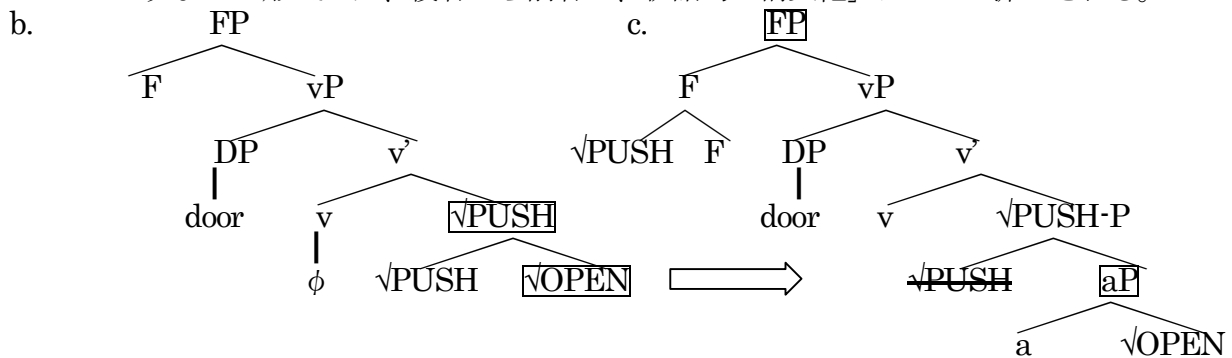
(6) 採用する仮定：

- a. 分散形態論による「語」の派生（語根+範疇化子）
- b. 文法化の一方向性（「構文化」の進行）
- c. 接辞・連結形の自立語化 (syntacticization)は、統語的「構文化」の一種である。
- d. 文法化にも、統語的「構文化」と分析されるものがある。

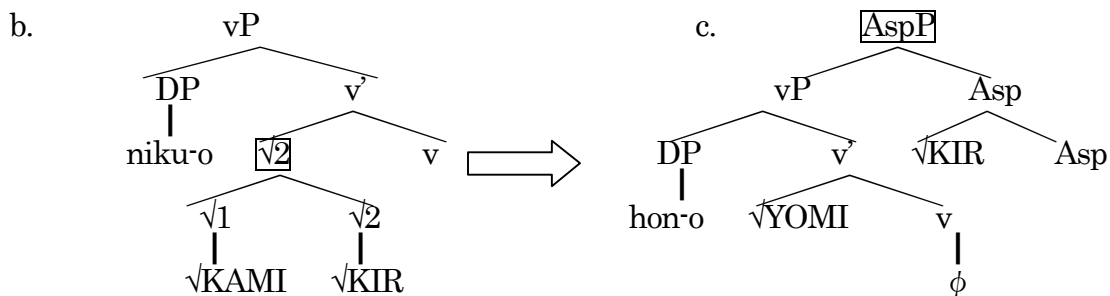
(7) a. **構文化と N-N 複合語の発生**：連結形 (Combining Form; CF)に基づく N-N 複合語 (stem-compounds; Kastovsky (2009: 10))は、語根と語根を結合して作られるが、通時的に CFが自立語へと「構文化」すると、CFと範疇化子 n を結合して作られた nP を linker を介して2つ併合した、より大きな統語構造をもつ word-compound が作られるようになる (cf. Allen (1978), Ackema and Neeleman (2007), Harley (2009), den Dikken (2006)).



(8) a. **構文化と結果構文の発生**：push the door open のような結果構文と、push open the door のような V-A 形式では、後者から前者が、統語的「構文化」によって派生される。



(9) a. **構文化と統語的複合動詞の発生**：日本語の複合動詞のうち、後項動詞が意味漂白を受けることによって語彙的複合動詞から統語的複合動詞に変化しているものについては、後項が動詞からアスペクト的機能範疇へと文法化し、複合動詞全体は「構文化」を受けている。(cf. Nishiyama and Ogawa (2011), Ogawa and Niinuma (2011), Fukuda (2012))



Corpus of Historical American English (COHA): <http://corpus2.byu.edu/coha/>: 1810~2009年までのアメリカ英語4億語を収録した歴史コーパス

Urban Dictionary: <http://www.urbandictionary.com>: 現代アメリカ英語の新造語を収録したコーパス

## 2. 連結形から N-N 複合語に至る通時的変化

### 2.1. -phobia/phobia の通時的変化

(10) -phobia: noun, combining form, 「～嫌い、～に対する恐怖症」(1820s~)

- a. 1820年代~1840年代: hydrophobia (恐水症、狂犬病) の1例しか実例が存在しない。
- b. 1850年代~1910年代: 複数の要素と phobia が結合しはじめるものの、phobia に前接する要素は anglo-, gyno-, russo- などの連結形にほぼ限られる。<sup>1, 2</sup>
- c. 1920年代前半~: 自立形態素としての phobia が使われ始める (a phobia, the phobia など)。
- d. 1920年代後半~: 自立形態素としての phobia が PP 補部を取り始める (phobia about /against / for ~ など)。
- e. 1930年代~: 自立語である N と phobia を組み合わせた N-N compound が使われ始める。(war phobia, dog phobia, disease phobia, color phobia, knife phobia など)

### 2.2. 連結形-phobic/phobic の通時的変化

(11) -phobic: adjective, combining form, 「～恐怖症の」(1830年代~)

- a. 1830年代~1930年代: hydrophobic, claustrophobic (1910~) の2例の連結形しか存在しない。
- b. 1940年代~: 自立形態素としての phobic が使われ始める。
- c. 1970年代~: 自立形態素としての phobic が PP 補部を取り始める。

---

<sup>1</sup> 連結形 (combining form) は、*affixoid* と呼ばれ、Bauer (1983) では、語に前接する場合は最初の連結形 (*initial combining form*)、語に後接する場合は終端の連結形 (*final combining form*) と呼ばれ区別されているものであるが、いずれの場合も、接頭辞・接尾辞とは区別される。*acrophobia* などの語の一部を構成する *phobia* が接尾辞ではないという根拠としては、同一形態素が接頭辞にも接尾辞にもなれるということはないし、接頭辞と接尾辞が直接結合するという事例も存在しないが、*phobia* には、このいずれの基準にも従わない *phobic*, *phobiac*, *phobism* などの語を構成する *phob-*, *phobi-* という異形態が存在する、という事実がある。接辞と連結形の一般的な区別については、Stein (1977), Bauer (1983), Plag (2003), Prcic (2008) を参照。ただし、連結形と接辞を区別する基準は明確でない場合が多く (cf. Marchand (1969))、両者を定義で区別するのではなく、一種のクライン (*cline*) 上の変異だとみなすべきであるとする立場 (Katsovsky (2009)) もある。この点についての助言をいただいた長野明子氏に感謝したい。

<sup>2</sup> この時代に、以下のようなハイフンで接続された N-N compound (X-phobia) も散見されるようになるが、これについては、本発表では(10a)と同様の現象の変種であると見なして、分析の対象外とする。

- d. 1990年代後半～: word-compound としての N-A compound (X phobic) が使われ始める。<sup>3</sup>

### 2.3. 連結形-holic の通時的変化

(12) -(a)holic: noun, combining form, 「～中毒者・強迫的渴望者」

- a. 1830年代～1890年代: alcoholic という連結形のみが使用可能
- b. 1900年代～1960年代: linking element としての-o-または-a-を挟んだ語が次々と作られ始める (e.g. workaholic, sexoholic, chocoholic, animalholic, shopaholic, fruitoholic, etc.)
- c. 1970年代～2000s年代: linking element としての-a-を挟むだけでなく、-a-の直前にハイフンを挟む複合語 (X-aholic) も作られるようになる (e.g. work-aholic, game-show-aholic など)
- d. Urban Dictionary によれば、現代アメリカ英語では、自立語としての holic も以下の意味で使われ始めている。  
Definition: Someone who is obsessed or addicted with something. Usually the thing that the person is obsessed with is implied.  
e.g. Hey man, get some sleep. Don't be a holic! (workaholic)
- e. work holic, shop holic などの word-compound が使われ始める段階には、まだ至っていない。

### 2.4. 拘束形態-burger の通時的変化と構文化

(13) -burger: noun, combining form, 「～を使ったハンバーガー式のパン」「～製のハンバーガー」

- a. 1920年代～: 意味的に不可分な地名としての Hamburger から、hamburger という普通名詞が生じる (hamburger という名詞は、1928年に初出例あり)。
- b. 1930年代～1960年代: combining form としての burger が発達して行く。  
(e.g. clamburger, cheeseburger, blimpeyburger, etc.)
- c. 1970年代前半～: 自立語としての burger が使われるようになる。
- d. 1975年～: burger with NP という PP 補部を伴う形式が使われるようになる。
- e. 1975年～: word-compound としての N burger が使われ出す。<sup>4</sup>  
(e.g. double king burger, Low-fat burger, vegetable burger, veggie burger, turkey burger, etc.)

---

<sup>3</sup>ここでも、ハイフンで接続された N-A compound (X-phobic) は、より早い1990年代前半から使われ始めるので、(10a)の変種であるとみなす。

<sup>4</sup>ここでも、cheese-burger (1977-), ham-burger (1980-), chili-burger (1999-)などのハイフンで接続された用例は見られるが、その出現は比較的遅い。理由は不明。

## 2.5. 説明すべき一般化

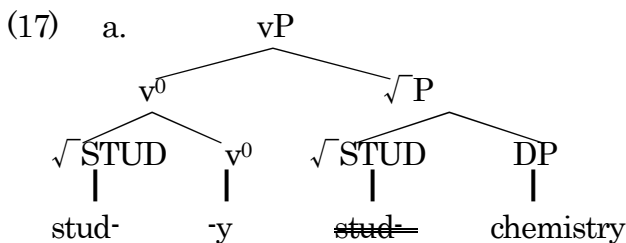
- (14) 一般化：連結形 (CF) をもとにした ICF+FCF の形態から、当該の FCF を用いた N1+N2 複合語 (N1 が自立語) が通時的に発達するまでには、FCF が自立語として用いられる段階が必ず介在する。つまり、通時的発達の過程は、以下のように進む。
- A) 特定の CF1 (ICF) と特定の CF2 (FCF) の結合しか許されない段階 (CF1・CF2)
  - B) CF1・CF2 における CF1 の位置に複数の CF の token が代入可能になる段階 (CF1<sub>(1..n)</sub>・CF2)
  - C) CF1 の代わりに自立語が、スペースなしで、または、ハイフンを介して代入され得るようになる段階 (N1・CF2、N1-CF2)
  - D) CF2 だったものが、自立語 (N2) として用いられるようになる段階 (a/the (ADJ) N2) <sup>5</sup>
  - E) N2 P N1 の形式で、CF1・CF2 の形式と類似の意味を表現することができるようになる段階 (N2 against N1 / N2 about N1 / N2 of N1)
  - F) N2 against N1 / N2 about N1 / N2 of N1 などと同じ機能と意味を持つ用法として、(スペースを挟んで接続される) N+N 複合語が用いられるようになる段階 (N1 N2)

## 2.6. Harley (2009) による N-N Compound の派生

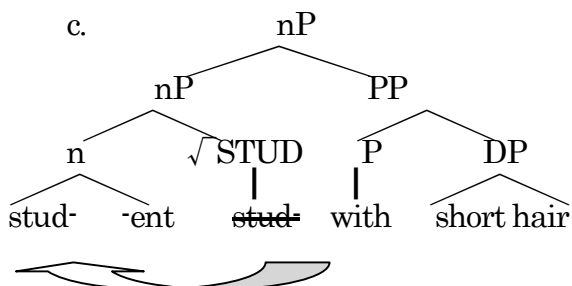
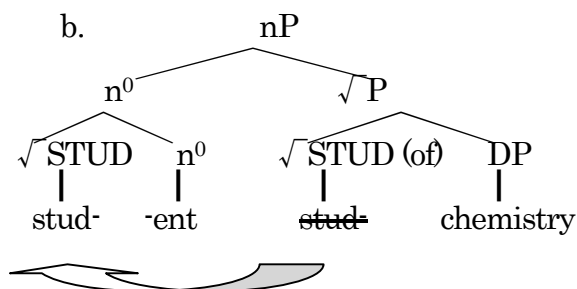
- (15) N-N compound の中には、語根と語根が結合した「語」ではなく、nP の中に別の nP を含む複雑な統語構造をもつ「句」であるものが存在する。

Harley (2009): DM における one 代入の可否の説明

- (16) a. ?\*That student of chemistry and this one of physics sit together.  
 b. That students with short hair and this one with long hair sit together. (p.134)

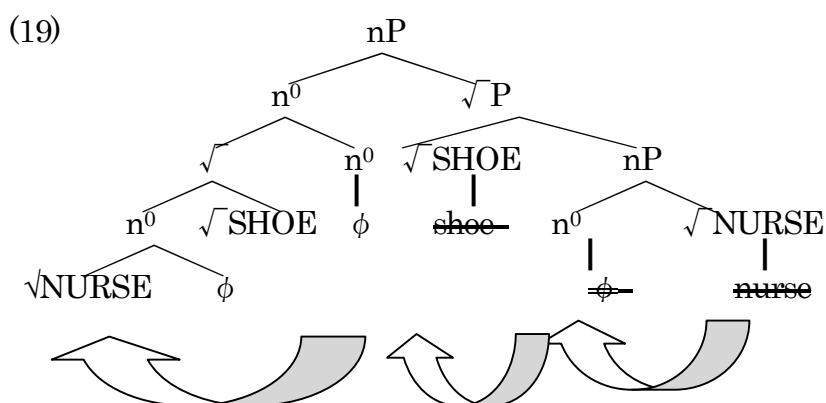


<sup>5</sup> この変化は、Givon (1979) が統語から形態への流れとして提案している形態化 (morphologization) とは逆の流れであり、むしろ、Ramat (1983) が脱文法化 (degrammaticalization) と呼んでいるもの、あるいは、Joseph and Janda (1988) が脱形態化 (demorphologization) と呼んでいるものと、現象的には等価である。



(18) one 代入は、nP を置き換えることができるが√P を置き換えることはできない。(p.135)

★ Harley (2009): DM における N-N compound の派生



★ DM における N-N compound の派生 (代案)

(20) 統語的により多くの機能範疇を含み、より複雑な操作を伴う操作は、より少ない機能範疇を含み、より単純な操作を伴う操作に比べて、通時的により遅い段階で発達する。

(21) \*[<sub>N</sub> [<sub>NP</sub> history of science] ist]

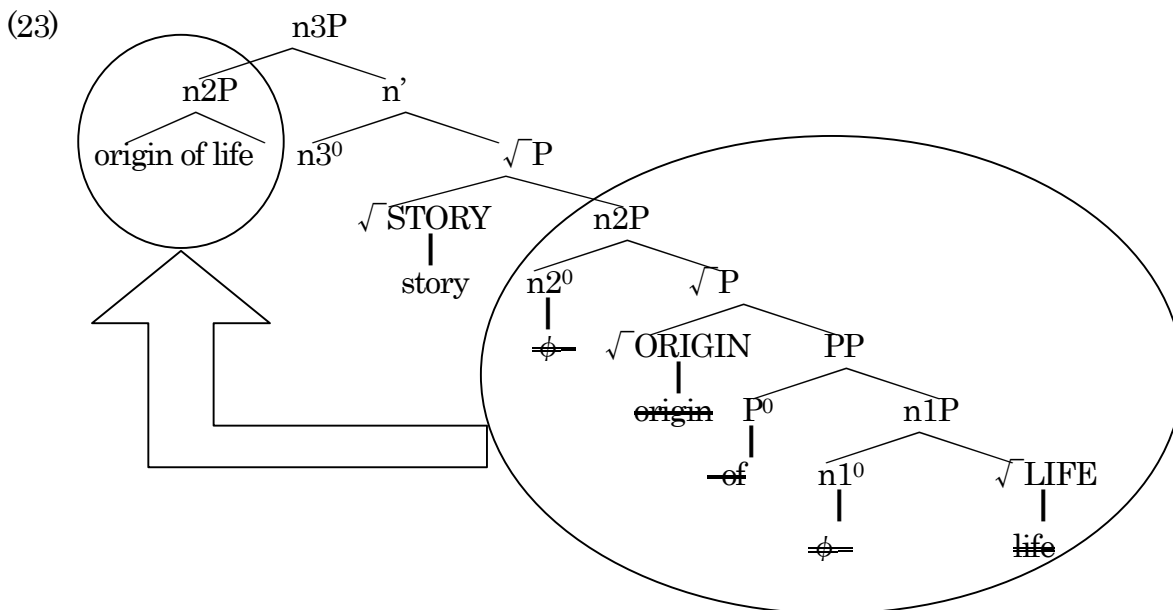
(22) a. [<sub>N</sub> [<sub>NP</sub> history of science] lecture] (Ackema and Neelman (2007: 342))

b. [<sub>N</sub> [<sub>NP</sub> quality of life] ranking]

c. [<sub>N</sub> [<sub>NP</sub> pursuit of happiness] phrase] (Paul Anthony, p.c.)

d. [<sub>N</sub> [<sub>NP</sub> origin of life] story] (Paul Anthony, p.c.)

e. [<sub>N</sub> [<sub>NP</sub> quality of money] formula] (Paul Anthony, p.c.)



## 2.7. A-N Compounds の統語的特性

Giegerich (2005) : A-N compound への one 代入 :

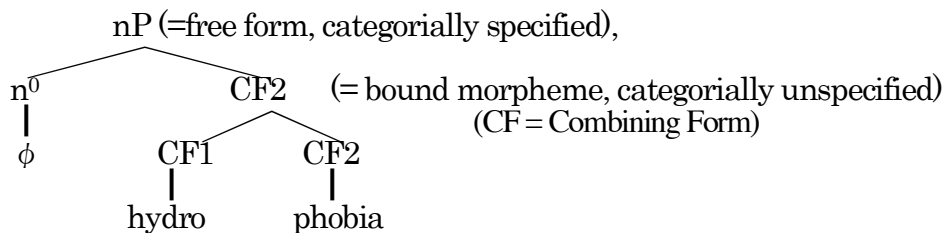
- (24) a. \*Do you mean the autumnal equinox or the vernal one?  
 b. \*Is he a constitutional lawyer or a criminal one? (p.580)  
 c. Is this a bovine strain of the disease or the feline one?  
 d. Do you have a medical appointment or a dental one? (p.579)

## 2.8. N-N Compounds の派生についての提案

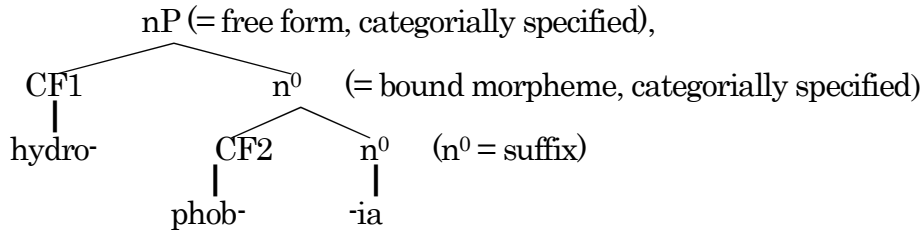
- (25) ICF+FCF 型複合語の各 CF は nP ではないが、N+N 型複合語の各 CF は nP である。  
 a.\*I have acrophobia and you have claustroone. (claustrophobia の意味で)  
 b.?I have a feline phobia and you have a dog one. (dog phobia の意味で)  
 c.?I have a dog phobia and you have a feline one. (feline phobia の意味で)  
 d. I have a phobia of dogs and you have one of cats. (phobia of cats の意味で)

提案する X-phobia / X-phobic タイプの N-N compound / N-A compound の通時的発達の過程 :

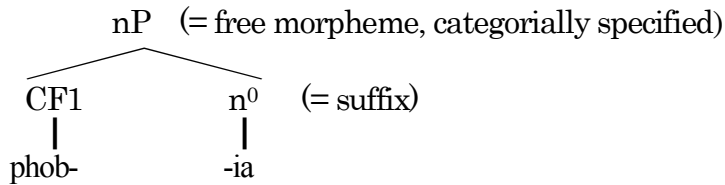
- (26) a. hydrophobia しか使われなかった時代 (1820 年代~1850 年代)



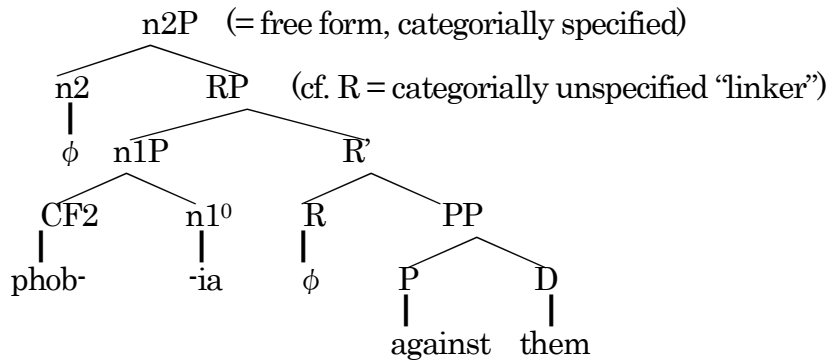
- b. CF1 に hydro-以外の複数の要素が代入可能になってきた時代 (1860 年代~1910 年代)



c. phobia が a/the など後続する自立語として使えるようになった時代 (1920 年代前半~)

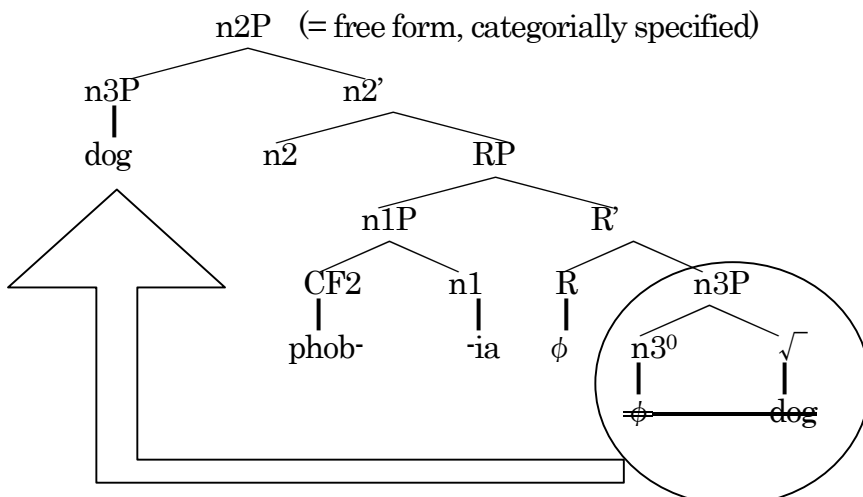


d. phobia が CF1 に当たる要素を補部に選択できるようになった時代 (1920 年代後半~)



- (27) a. a jewel **of** a village  
 b. an idiot **of** a man (cf. den Dikken (2006))  
 c. [RP [NumP a jewel] [R R (of) [NumP a village]]]

(26) e. phobia が補部に選択した CF1 に当たる要素を、より上位の nP の指定部に移動できるようになった時代 (1930s~)





### 3. 結果構文と V-A 形式

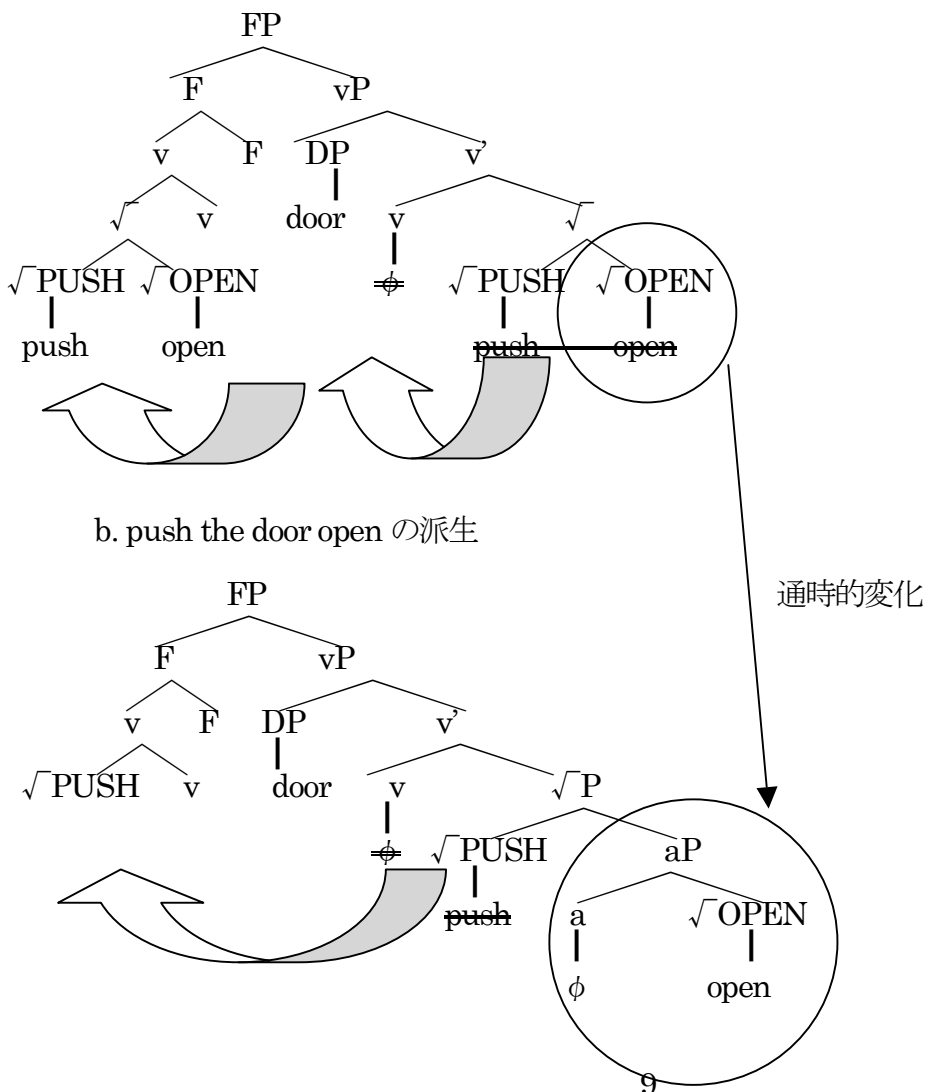
- (28) a. push the door open (結果構文)  
 b. push open the door (V-A 形式)
- (29) a. bleach the shirt white (結果構文)  
 b. bleach white the shirt (V-A 形式)

☆Taniwaki (2006) : (28b), (29b)の V-A 形式は「語彙的複合語」であって結果構文とは別もの。

☆Nagano and Shimada (2009) : (28a,b)の交替と(29a,b)の交替は別物であり、(29a,b)の交替については、(29b)は(29a)からの「語彙化」によって派生されるが、(28a,b)の交替については、Bolinger (1971)に従い、pull off the leeches と pull the leeches off の Verb-Particle Alternation と同様の統語的な交替現象である。

(30) 通時的により早い段階で出現する語順は、共時的にも移動前の、より小さいサイズの構成素から成る統語構造を反映し、そうでない方の構造は、共時的にも派生的な構造を反映している。

(31) a. push open the door の派生



[1] V the door open という形式の結果構文と、V open the door という V-A 形式の出現時期を COHA を用いて調べた結果 → 「資料 3」

[2] 基底構造・派生構造の決定と使用頻度の関係 → 「資料 3」

- (32) a. push, swing, slam, kick, blow, bang, creak, slide, fling, shake, pry, pull, break, throw という 13 の動詞 (開口部の開け方を表わす動詞) のすべてにおいて、V open the [nn\*] の形式のほうが、V the [nn\*] open の形式よりも早い時期か、または時期に使われ始めた。また、使用頻度においても、大差で、V open the [nn\*] > V the [nn\*] open。
- b. これら 13 の動詞のすべてにおいて、1810 年代から 2000 年代までの 200 年間の使用頻度を合計すると、V open the [nn\*] の形式のほうが V the [nn\*] open の形式よりも使用頻度が高い。

[3] 日本語でも、「押し開ける」「蹴り開ける」「こじ開ける」という語彙的複合動詞がある。英語でも、push, kick, jerk と open は、「開閉目的の行為」とその「結果状態」という緊密性の高い一連の事象として認識されやすい、と考えられる。

[4] 結果構文において、直接目的語と AP がともに VP の領域内に存在するという証拠: slowly, slightly, gently, silently などの様態の副詞が、結果句の直前に共起できる (COHA にも類例あり)。

- (33) a. I pushed the door slowly open.  
b. %I pushed the door gently open.  
c. %I pushed the door suddenly open.  
d. %I pushed the door silently open.  
e. %I pushed the door politely open. (Anne Thomas, Paul Anthony, p.c.)

[5] 同じ結果構文でも、文末に付加した again の作用域が V を含むものと含まないものがある。dye NP black again では dye は again の作用域に含まれない (become black のみ含まれる) が、push NP open again では push は again の作用域に含まれる。

- (35) a. Taro dyed his hair black again.  
b. Taro dyed [[his hair black] again] (Tomioka (2011: 163))  
c. Taro dyed his hair black for the first time, after it became white due to his age.

- (36) a. I pushed the door open again.  
b. I [pushed the door open] again] (Paul Anthony, p.c.)  
c. I had pushed the door open previously, and pushed it open again.  
d. #I pushed the door open for the first time, after it had been closed by wind.

[6] “push open” という V-A 形式から派生された以下のような名詞・形容詞がある。ここで、categorizer は、V と open の間に挿入されることも、V+open 全体に連結することも可能。

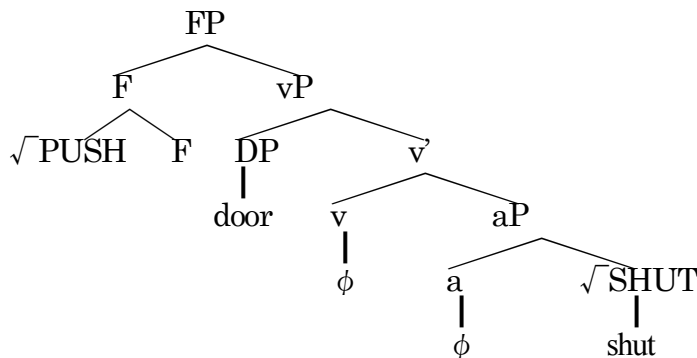
- (37) a. pull-openable (Nagano and Shimada (2009: 91))  
 b. push-opener / pusher-open (ibid.: 91)  
 c. the smashed-open safe (Carrier and Randall (1992: 195))

[7] オランダ語においても、I wanted to make open the door open.の意味を表す構文における make と open のまともりは、「語」サイズの場合と「句」サイズの場合があるがある。

- (38) a. dat ik de deur wilde **open** maken (V-raising のさい open も pied-piped)  
 that I the door wanted open make  
 ‘that I wanted to open the door’  
 b. dat ik de deur **open** wilde maken (V-raising のさい open は stranded)  
 that I the door open wanted make (Booij (2010: 135))

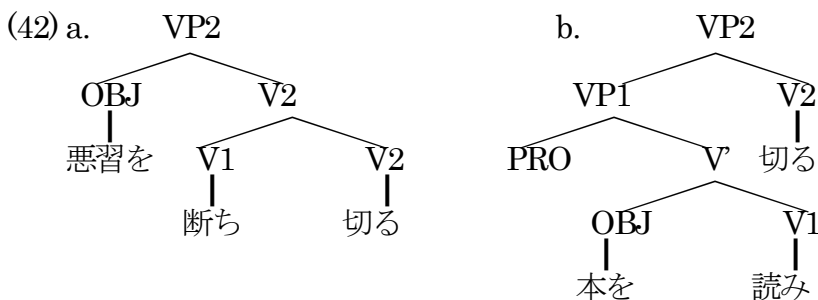
- (39) a. push the door shut (初出; 1868)  
 b. push shut the door (初出; 1913) → 「資料3」

(40) push the door shut の派生



#### 4. 日本語の V-V 複合語における文法化と構文化

- (41) 影山 (1993)による日本語複合動詞の二分類 (V2が「切る」の場合) :  
 a. 語彙的複合動詞：噛み切る、挟み切る、押し切る、叩き切る、断ち切る、打ち切る、...  
 b. 統語的複合動詞：読み切る、喋り切る、抑え切る、書き切る、冷え切る、...



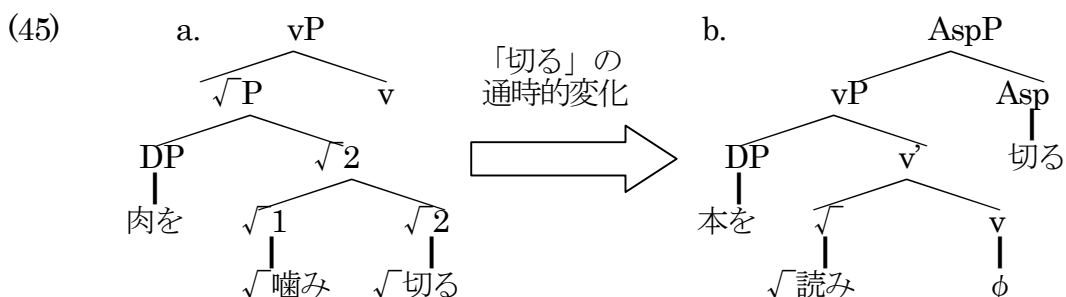
(43) 語彙的複合動詞：

- a. 太郎が悪習を断ち切った/\*分断し切った。 (V1のサ変動詞での置き換え不可)
- b.\*太郎が悪習を断ち切り、次郎もそうし切った。(V1の「そうし」での置き換え不可)
- c. 悪習が断ち切られた/\*悪習が断たれ切った。 (V1の受動化不可)

(44) 統語的複合動詞：

- a. 太郎は相手の出方を読み切った/計算し切った。(V1のサ変動詞での置き換え可)
- b. 太郎は言いたいことを言い切り、次郎もそうし切った。(V1の「そうし」での置き換え可)
- c. 我々の出方は相手に読まれ切っている/\*読み切られている。(V1の受動化可)

Nishiyama and Ogawa (2011), 西山・小川 (刊行予定)、Ogawa and Niinuma (2011) :



(46) 姫野 (1999: 173-175)の分類：

- a. 語彙的複合動詞 (他動詞+きる=自動詞+きる=他動詞)
  - ① 切断 (焼き切る、挟み切る、擦り切る、ねじり切る、など)
  - ② 終結 (乗り切る、振り切る、割り切る、思い切る、言い切る)
- b. 統語的複合動詞 (他動詞+きる=他動詞、自動詞+きる=自動詞)
  - ① 完遂 (学生が走り切る、小説を読み切る) —— 継続動詞・意志動詞
  - ② 極度 (手足が冷えきる、相手をなめきる) —— 瞬間動詞・結果動詞

(47) 青木 (2010)の観察：

- a. まず、姫野が「終結」に分類している用例の中の「言ひ切る」「思ひ切る」の「きる」は、より正確には、「きっぱりと」「はっきりと」のような「強調」を伴った「区切りをつける」という意味であり、「きる」の原義を保っており、中古語から中世前期にかけては(46a-①)の意味の用法と「強調」を表わす「言ひ切る」「思ひ切る」しか存在しなかった。
- b. 中世後期語になると、動作・作用が十分な完結状態に至ことを表わす文法的な形式としての「静まりきる」「振り切る」などの(46a-②)の用法が登場した。
- c. (47a)の段階では、「切る」に接続するV1は、変化動詞に限られるという選択制限があった。ところが、近世以降(江戸期)になると、動作動詞や非限界動詞に「切る」が後続し、動作の「完遂」を表わす例も見られるようになった。

(48)	「切る」の意味	V1の選択制限	实例
a.	物の切断：	一部の動詞	射きる、断ちきる、掻ききる
b.	空間の遮断	一部の動詞	仕切る、立てきる、せききる

c. 終結→強調	発話・思考動詞	言ひ切る、思ひきる、振り切る
d. 極度の状態	変化動詞・限界動詞	澄み切る、静まり切る
e. 動作の完遂	動作動詞・非限界動詞	使い切る、走り切る

(45a)の構造 → (48a,b) / (45b)の構造 → (48c-e) (語彙範疇から機能範疇への変化としての「文法化」と、複文から単文への変化としての「再構造化」を含む)

(49) Successive upward reanalysis along the functional hierarchy is thus how we define grammaticalization path. (Roberts and Roussou (2003: 202))

(50) [AspP [VoiceP [AspP [vP [√ V1 √KIR] v] Asp (KIR)] Voice (RARE)] Asp (KIR)]

- |    |             |                   |
|----|-------------|-------------------|
| a. | 断ち切る/*分断し切る |                   |
| b. | 言い/表現し      | 切る (Agentive)     |
| c. | 冷え/憔悴し      | きる (non-Agentive) |

## 5. 結論

本発表では、統語的な「構文」と「構文化」について、(4)-(5)の定義を与えた上で、「文法化」と「語彙化」の一部を統語的な「構文化」に還元する可能性について論じた。具体的には、まず、連結形 (Combining Form)が自立語化を経て N-N 複合語を生じる通時的変化の過程を指摘し、N-N 複合語について、語彙部門での語形成の結果ではなく、分散形態論で提案されている意味での、複数の nP を支配する従来よりもかなり大きな統語的単位であると主張した。また、拘束形態から自立語への変化は、「脱文法化」「統語化」「語彙化」などの呼称があり、用語の不統一が問題となっていたが、本発表では、DMに基づき、この現象にも当てはまる「構文化」の定義を採用した。

第二に、通時的に、V-A-NP 形式が V-NP-AP 形式の結果構文に変化する現象と、第三に、語根のみを含む複合語がアスペクト的機能範疇を含む複合語に変化したりする現象について、これらも統語的な「構文化」の結果であると主張し、カートグラフィーに基づく説明を与えた。

## References:

- Ackema, Peter and Ad Neeleman (2007) "Morphology ≠ Syntax," *The Oxford Handbook of Linguistic Interfaces*, ed. by G. Ramchand and C. Reiss, Oxford University Press, Oxford.
- 秋元実治・前田満 (2013) 『文法化と構文化』 ひつじ書房, 東京.
- Allen, Margaret Reece (1978) *Morphological Investigations*, Ph.D. dissertation, MIT.
- 青木博史 (2010) 『語形成から見た日本語文法史』 ひつじ書房, 東京.
- Basilico, David (2008) "Particle Verbs and Benefactive Double Objects in English: High and Low Attachment," *Natural Language and Linguistic Theory* 26:731-773.
- Bauer, Laurie (1983) *English Word-Formation*, Cambridge University Press, Cambridge, MA.
- Bergs, Alexander and Gabriele Diewald (eds.) (2008) *Constructions and Language Change*, Mouton de Gruyter, Berlin.
- Bolinger, Dwight (1971) *The Phrasal Verb in English*, Harvard University Press, Cambridge, MA.
- Booij, Geert (2010) *Construction Morphology*, Oxford University Press, Oxford.
- Brinton, Laurel J. and Elizabeth C. Traugott (2005) *Lexicalization and Language Change*, Cambridge University Press, Cambridge.

- Cinque, Guglielmo (2006) *Restructuring and Functional Heads: The Cartography of Syntactic Structures* 4. New York: Oxford University Press.
- den Dikken, Marcel (2006) *Relations and Linkers: The Syntax of Predication, Predicate Inversion, and Copulas*, MIT Press, Cambridge, MA.
- Fukuda, Shin (2012) Aspectual verbs as functional heads: evidence from Japanese aspectual verbs. *Natural Language and Linguistic Theory* 30, 965-1026.
- Giegerich, Heinz J. (2005) "Associative Adjectives in English and the Lexicon-Syntax Interface," *Journal of Linguistics* 41, 571-591.
- Givón, Talmy (1979) *On Understanding Grammar*, Academic Press, New York.
- Goldberg, Adele (2006) *Constructions at Work*, Oxford University Press.
- Harley, Heidi (2009) "Compoundings in Distributed Morphology," *The Oxford Handbook of Compounding*, ed. by Rochelle Lieber and Pavol Stekauer, 129-144, Oxford University Press, Oxford.
- Haspelmath, Martin (1999) "Why is Grammaticalization Irreversible?," *Linguistics* 37-6, 1043-1068.
- Heine, Bernd (2003) "On Degrammaticalization," *Historical Linguistics 2001*, ed. by Blake, Barry J. & Kate Burridge, 163-179. John Benjamins, Amsterdam.
- Hilpert, Martin (2013) *Constructional Changes in English: Developments in Allomorphy, Word Formation, and Syntax*, Cambridge University Press.
- 姫野昌子 (1999) 『複合動詞の構造と意味用法』ひつじ所病、東京。
- Himmelman, Nikolaus P. (2004) "Lexicalization and Grammaticalization: Opposite or Orthogonal?," *What Makes Grammaticalization*, ed. by W. Bisang, N. Himmelman and B. Wiemer, 21-42, Mouton de Gruyter, Berlin/New York.
- Hopper, Paul J. and Elizabeth Cross Traugott (2003 [1993]) *Grammaticalization* (2nd ed.), Cambridge University Press, Cambridge.
- 影山太郎 (1993) 『文法と語形成』ひつじ書房。
- Katsovsky, Dieter (2009) "Astronaut, Astrology, Astrophysics: About Combining Forms, Classical Compounds, and Affixoids," *Selected Proceedings of the 2008 Symposium on New Approaches in English Historical Lexis (HEL-LEX 2)*, ed. by R.W. McConchie, Alpo Honkapohja, and Jukka Tyrkkö, 1-13, Cascadilla Proceedings Project, Somerville, MA.
- Marchand, Hans (1969) *The Categories and Types of Present-Day English Word-Formation: A Synchronic-Diachronic Approach*, Second edition, C. H. Beck, Munich.
- Nagano, Akiko and Masaharu Shimada (2009) "English [V-A]V Forms and the Interaction between Morphology and Syntax," *On-Line Proceedings of the 7<sup>th</sup> Mediterranean Morphology Meeting*, 78-97.
- Nishiyama, Kunio and Yoshiki Ogawa (2011) "Auxiliation, Atransitivity, and Transitivity Harmony in Japanese V-V Compounds," 神田外語大学大学院紀要『言語科学研究』(特別号), 遠藤喜雄(編), 「談話のカートグラフィー研究: 主文現象と複文現象の統合を目指して(2)」, 239-291.
- Norde, Muriel (2010) *Degrammaticalization*, Oxford UP, Oxford. Berlin/New York.
- 西山國雄・小川芳樹(刊行予定)「複合動詞における助動詞化と無他動性」『世界に向けた日本語研究』遠藤嘉雄(編)、開拓社。
- Ogawa, Yoshiki and Fumikazu Niinuma (2011) "A Syntactic Consideration of the Transitivity Alternation and Transitivity Harmony in the Japanese V-V compounds: With Special Reference to V+*agaru* and V+*ageru*," *Linguistic Theories and Their Application*, ed. by Jong-Yurl Yoon, et al., Hankookmunhwasa.
- Plag, Ingo (2003) *Word-Formation in English*, Cambridge University Press, Cambridge.
- Prcic, Tvrtko (2008) "Suffix vs. Final Combining Form in English: A Lexicographic Perspective," *International Journal of Lexicography* (prepublication).
- Roberts Ian and Anna Roussou (2003) *Syntactic change*. Cambridge University Press, Cambridge.
- Stein, Gabriele (1977) "English Combining Forms," *Linguistica* IX, 140-149.
- Tomioka, Naoko (2011) "Word-internal Modification without the Syntax-Morphology Interface," *Interfaces in Linguistics: New Research Perspectives*, ed. by Raffaella Folli and Christiane Ulbrich, 151-165, Oxford University Press, Oxford.



年代		1810s	1820s	1830s	1840s	1850s	1860~1880	1890s	1900s	1910s	1920s	1930s	1940s	1950s	1960s	1970s	1980s	1990s	2000s	小計
[nn*] phobia												1	6	3	0	0	2	2	7	21
1932	war phobia											1								1
1940	dog phobia												1							1
1946	disease phobia												3							3
1946	cancer phobia												1							1
1946	asphyxia phobia												1							1
1953	atom phobia													1						1
1954	color phobia													2						2
	computer phobia																1			1
	math phobia																1			1
	knife phobia																	1		1
	condiments phobia																	1		1
	bird phobia																		1	1
	carb phobia																		1	1
	clown phobia																			1
	distance phobia																			2
	flatland phobia																			2
[i*] phobia											1	1	2			1	1	1	1	7
1929	sort of phobia										1			1						2
1940	cases of phobia												1							1
1954	some kind of phobia													1		1	1			3
	on phobia																			1
小計		0	1	0			0		0	0	12	9	41	21	11	6	19	9	31	160
その他	~phobia~										4		1				1			1
	or phobia										1									1
	and phobia												1							1
	first phobia										1									1
	(phobia)												1							1
	X's phobia													1						1
	neurosis , phobia,														1					1
	the throwing phobia																1			1
	(dash) phobia																1	1		2
	M phobia																	1		1
	hydro-phobia										1									1
	文頭															1				1
合計	自立語		1								19	9	44	22	12	7	22	11	35	182





<資料2: 自立語のphobicと拘束形態のphobicの用例数>

自立形態	年代	1810s	1820s	1830s	1840s	1850s	1860~1880	1890s	1900s	1910s	1920s	1930s	1940s	1950s	1960s	1970s	1980s	1990s	2000s	小計
[at*] phobic														2	1		2		2	7
1953	the phobic													1	1		1		1	4
1952	a phobic													1			1		1	3
[d*] phobic																	1			1
1985	own phobic																1			1
[app*] phobic																				1
2001	my phobic																		1	1
[j*] phobic																2				2
1970	severe phobic reactions															1				1
1970	postoeidpal phobic reactions															1				1
[nn*] phobic																		6	11	17
1998	commitment phobic																	1		1
2000	school phobic, fashion phobic																		2	2
2002	germ phobic																		1	1
2005	a closet phobic (= NP)																		1	1
1992	marriage-phobic																	1		1
1993	commitment-phobic, poultry-phobic																	3	1	4
1999	instrument-phobic																	1		1
2000	computer-phobic																		2	2
2002	tax-phobic																		1	1
2008	snake-phobic																		1	1
その他													3			3	1	2	3	12
1945	文頭												2			1				3
1946	seven phobic												1							1
1972	and phobic															1				1
1972	[be] phobic															1			1	2
1984	[*] phobic																1	1	1	3
1994	get phobic																	1		1
2000	socially phobic																		1	1
小計		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	2	1	5	4	8	16	39
phobic [*]																				
1972	phobic about															1		1	1	3
拘束形態																				
1919	claustrophobic									1			2		20	26	24	50	50	173
1951	xenophobic													2	6	11	25	15	11	70
1990	homophobic																	19	10	29
1838	hydrophobic			1	1				2				1	2	1	1	3	3	3	18
1975	agoraphobic															1	1	1	6	9
	その他											2	6	9	4	10	7	10	21	126
小計		0	0	1	1	0	0	0	2	1	0	2	9	13	31	49	60	98	101	368

<資料3: V A NP形式とV NP A形式(結果構文)の初出年代と用例数>

	初出年		初出年
[push] shut the [nn*]	1913	<	[push] the [nn*] shut 1884
[swing] shut the [nn*]	1897	=	[swing] the [nn*] shut 1897
[slam] shut the [nn*]	1911	<	[slam] the [nn*] shut 1868
[kick] shut the [nn*]	1969	<	[kick] the [nn*] shut 1917
[blow] shut the [nn*]	0 hit	<	[blow] the [nn*] shut 1946
[bang] shut the [nn*]	1919	<	[bang] the [nn*] shut 1900
[creak] shut the [nn*]	0 hit	<	[creak] the [nn*] shut 1950
[slide] shut the [nn*]	1981	<	[slide] the [nn*] shut 1925
[fling] shut the [nn*]	0 hit	<	[fling] the [nn*] shut 1910
[shake] shut the [nn*]	0 hit		[shake] the [nn*] shut 0 hit
[pry] shut the [nn*]	0 hit		[pry] shut the [nn*] 0 hit
[pull] shut the [nn*]	1920	<	[pull] the [nn*] shut 1869
[break] shut the [nn*]	0 hit		[break] the [nn*] shut 0 hit
[throw] shut the [nn*]	0 hit	<	[throw] the [nn*] shut 1943
[cut] shut the [nn*]	0 hit		[cut] the [nn*] shut 0 hit
[burst] shut the [nn*]	0 hit		[burst] the [nn*] shut 0 hit
[tear] shut the [nn*]	0 hit		[tear] the [nn*] shut 0 hit
平均	1930	<	平均 1909.9091

	用例数		用例数
[push] shut the [nn*]	2	<	[push] the [nn*] shut 41
[swing] shut the [nn*]	5	<	[swing] the [nn*] shut 25
[slam] shut the [nn*]	42	<	[slam] the [nn*] shut 201
[kick] shut the [nn*]	2	<	[kick] the [nn*] shut 52
[blow] shut the [nn*]	0	<	[blow] the [nn*] shut 2
[bang] shut the [nn*]	6	<	[bang] the [nn*] shut 26
[creak] shut the [nn*]	0	<	[creak] the [nn*] shut 1
[slide] shut the [nn*]	1	<	[slide] the [nn*] shut 27
[fling] shut the [nn*]	0	<	[fling] the [nn*] shut 3
[shake] shut the [nn*]	0		[shake] the [nn*] shut 0
[pry] shut the [nn*]	0		[pry] shut the [nn*] 0
[pull] shut the [nn*]	7	<	[pull] the [nn*] shut 106
[break] shut the [nn*]			[break] the [nn*] shut 0
[throw] shut the [nn*]	0	<	[throw] the [nn*] shut 1
[cut] shut the [nn*]	0		[cut] the [nn*] shut 0
[burst] shut the [nn*]	0		[burst] the [nn*] shut 0
[tear] shut the [nn*]	0		[tear] the [nn*] shut 0
小計	65	<	小計 485

	初出年		初出年
[push] the [nn*] open	1830	=	[push] open the [nn*] 1830
[swing] the [nn*] open	1885	<	[swing] open the [nn*] 1843
[slam] the [nn*] open	1949	<	[slam] open the [nn*] 1933
[kick] the [nn*] open	1892	<	[kick] open the [nn*] 1838
[blow] the [nn*] open	1898	<	[blow] open the [nn*] 1854
[bang] the [nn*] open	1879	=	[bang] open the [nn*] 1879
[creak] the [nn*] open	0 hit	<	[creak] open the [nn*] 1970
[slide] the [nn*] open	1947	<	[slide] open the [nn*] 1915
[fling] the [nn*] open	1833	<	[fling] open the [nn*] 1830
[shake] the [nn*] open	1978	<	[shake] open the [nn*] 1933
[pry] the [nn*] open	1875	<	[pry] open the [nn*] 1860
[pull] the [nn*] open	1851	<	[pull] open the [nn*] 1833
[break] the [nn*] open	1919	<	[break] open the [nn*] 1815
[throw] the [nn*] open	1825	<	[throw] open the [nn*] 1816
[cut] the [nn*] open	1897	<	[cut] open the [nn*] 1824
[burst] the [nn*] open	1823	=	[burst] open the [nn*] 1823
[tear] the [nn*] open	1822	=	[tear] open the [nn*] 1822
平均	1881.438	<	平均 1859.8824

	用例数		用例数
[push] the [nn*] open	265	<	[push] open the [nn*] 474
[swing] the [nn*] open	67	<	[swing] open the [nn*] 106
[slam] the [nn*] open	4	<	[slam] open the [nn*] 8
[kick] the [nn*] open	29	<	[kick] open the [nn*] 48
[blow] the [nn*] open	8	<	[blow] open the [nn*] 16
[bang] the [nn*] open	6	<	[bang] open the [nn*] 11
[creak] the [nn*] open	0	<	[creak] open the [nn*] 3
[slide] the [nn*] open	27	<	[slide] open the [nn*] 42
[fling] the [nn*] open	65	<	[fling] open the [nn*] 212
[shake] the [nn*] open	1	<	[shake] open the [nn*] 2
[pry] the [nn*] open	17	<	[pry] open the [nn*] 74
[pull] the [nn*] open	98	<	[pull] open the [nn*] 192
[break] the [nn*] open	17	<	[break] open the [nn*] 177
[throw] the [nn*] open	98	<	[throw] open the [nn*] 697
[cut] the [nn*] open	14	<	[cut] open the [nn*] 57
[burst] the [nn*] open	11	<	[burst] open the [nn*] 64
[tear] the [nn*] open	48	<	[tear] open the [nn*] 270
小計	775	<	小計 2453

<資料3: V A NP形式とV NP A形式(結果構文)の初出年代と用例数>

[V NP shut] type:

[wipe] clean * [nn*]	1908	<	[wipe] * [nn*] clean	1847
[wipe] clean the [nn*]	1918	<	[wipe] the [nn*] clean	1883
[wipe] clean the * [nn*]	1975	<	[wipe] the * [nn*] clean	1910

[wipe] clean * [nn*]	10	<	[wipe] * [nn*] clean	99
[wipe] clean the [nn*]	6	<	[wipe] the [nn*] clean	63
[wipe] clean the * [nn*]	2	<	[wipe] the * [nn*] clean	9

[pull] free * [nn*]	1964	<	[pull] * [nn*] free	1915
[pull] free the [nn*]	1989	<	[pull] the [nn*] free	1940
[pull] free the * [nn*]	0 hit	<	[pull] the * [nn*] free	1946

[pull] free * [nn*]	9	<	[pull] * [nn*] free	71
[pull] free the [nn*]	2	<	[pull] the [nn*] free	17
[pull] free the * [nn*]	0	<	[pull] the * [nn*] free	4

[shake] free * [nn*]	1902	<	[shake] * [nn*] free	1891
[shake] free the * [nn*]	2002	<	[shake] the * [nn*] free	1917
[shake] free [at*] [nn*]	1902	<	[shake] [at*] [nn*] free	1891

[shake] free * [nn*]	7	<	shake * [nn*] free	37
[shake] free the * [nn*]	1	<	shake the * [nn*] free	2
[shake] free [at*] [nn*]	3	<	[shake] [at*] [nn*] free	5

[paint] white [at*] [nn*]	1900	<	[paint] [at*] [nn*] white	1864
---------------------------	------	---	---------------------------	------

[paint] white [at*] [nn*]	4	<	[paint] [at*] [nn*] white	22
---------------------------	---	---	---------------------------	----

[hammer] flat * [nn*]	0 hit	<	[hammer] * [nn*] flat	1987
-----------------------	-------	---	-----------------------	------

[hammer] flat * [nn*]	0	<	[hammer] * [nn*] flat	1
-----------------------	---	---	-----------------------	---

[dye] black * hair	0 hit	<	[dye] * hair black	1852
--------------------	-------	---	--------------------	------

[dye] black * hair	0	<	[dye] * hair black	17
--------------------	---	---	--------------------	----

[V open NP] type:

[bleach] * [nn*] white	1969	<	[bleach] white * [nn*]	1853
[bleach] the [nn*] white	0 hit		[bleach] white the [nn*]	0 hit
[bleach] the * [nn*] whi	0 hit		[bleach] white the * [nn*]	0 hit

[bleach] * [nn*] white	1	=	[bleach] white * [nn*]	1
[bleach] the [nn*] white	0		[bleach] white the [nn*]	0
[bleach] the * [nn*] whi	0		[bleach] white the * [nn*]	0

[cut] * [nn*] short	1817	<	[cut] short * [nn*]	1812
[cut] the * [nn*] short	1921	<	[cut] short the * [nn*]	1833
[cut] [at*] [nn*] short	1817	>	[cut] short [at*] [nn*]	1823

[cut] * [nn*] short	161	<	[cut] short * [nn*]	170
[cut] the * [nn*] short	8	<	[cut] short the * [nn*]	45
[cut] [at*] [nn*] short	97	<	[cut] short [at*] [nn*]	144

